

平成31年4月10日号 (第195回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「6階西病棟のご紹介」をテーマに、6階西病棟の廣田 登代子看護師長よりお話しさせていただきます。

6階西病棟は阿伎留医療センターの最上階の西側に位置しており、病室の窓からはサマーランドの先に多摩の美しい山々を見渡すことができます。四季によって山々が表情を変え、冬は雪景色、春は梅や桜の美しい色が広がります。初夏の新緑はすがすがしい気分になり、秋には素晴らしい紅葉が山々を包みます。

このような療養環境の6階西病棟について紹介させていただきます。

《6西病棟の特徴》

平成28年7月に消化器内科と外科の病棟を統合し、消化器病センターとしてスタートを切ってから3年が過ぎようとしています。

消化器内科と外科の医師が同じ病棟で患者さんを診ており、患者さんが安心・安全かつ納得の得られる医療サービスを受けられるよう連携を取っています。消化器内科で術前検査をした後に、手術のために外科で再入院となった際も、同じ病棟に入院し、同じ看護師が関わるので、患者さんにとっては慣れた環境で安心して手術前後の入院生活を送っていただくことができます。



《対象の病気》

消化器の治療を主とする病棟です。消化器とは食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、脾臓、すい臓、胆のう等のことを言います。

6階西病棟では、主に消化器の良性腫瘍や悪性腫瘍、胃炎、肝炎、すい炎、胆管炎、胆石、潰瘍性大腸炎の治療を行います。

《治療内容》

内科的治療は内視鏡治療、炎症を伴う病気に対しては抗生剤点滴治療、潰瘍性大腸炎に対しては血液成分除去療法なども行っています。

手術が適応される場合、胃、小腸、ヘルニア、胆のう、虫垂、大腸の病気では、ほぼ半数以上で腹腔鏡手術を行っています。外科では手術後の化学療法の患者さんも多く入院されています。

《病棟スタッフより》

消化器内科医師4名、外科医師6名、看護師24名、看護補助者3名のスタッフが、職種を超えて連携をとり、患者さんが安心して入院生活を送ることができる環境を整備していきます。



6階西病棟からの景色



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)